

ふくしま 再生 短信

9/23 セグラSGRA飯舘村小宮へ



【写真説明】1.花仙人ことマキバノハナゾノ主人・大久保金一さん（中央）にアヤメ株分けの手ほどきを受けるセグラのみなさん。2.金一さん（中央）の説明に耳を傾ける渥美財団事務局長・角田英一さん（右）。3.アヤメ株分け終了、一同この日のナビゲーター・溝口勝さん（右端）とパチリ。4と5.小宮への途中再生の夢・漆の試験栽培場に立寄り。6.金一さんを囲む午餐は渾身の各国料理満載。

2019年9月23日公益財団法人渥美国際交流財団のセグラ（SGRA、関口グローバル研究会）一行13名のスタディツアー最終日に同行。セグラは海外から日本留学した博士号取得者を中心とする若手研究者集団、渥美国際交流財団の国際交流事業の一環として運営されており、スタディツアーは今回で8回

目。9時風と土の家を出発、この日のナビゲーターは東大大学院教授・溝口勝さん。前田の漆試験栽培場を経て10時半マキバノハナゾノ到着。金一さんの案内でハナゾノ見学の後、アヤメの株分けに全員で挑戦。財団事務局長角田英一さん「現場に行ってみると土に触れ考える、これが基本です」。土に触れ考える、記者もこの言葉を嘯みしめながらセグラのみなさんをいつまでも見送った。（文責&撮影・若林一平）